

令和2年4月

**新型コロナウイルス感染症対策における
音楽科の活動内容制限に対応した学習指導例【小学校】**

教育出版株式会社 音楽編集部

新型コロナウイルス感染症対策として、自治体や学校のご判断により、音楽の授業が行われる際に、以下の内容を避ける旨の指針が示される場合が考えられます。

- ★歌唱や合唱、発声を伴う音楽づくりの活動
- ★鍵盤ハーモニカやリコーダーなどの吹奏楽器の演奏活動

そのため、弊社発行の令和2年度版小学校音楽科教科書「小学音楽 音楽のおくりもの」掲載の教材等について、活動内容制限への対応や、行為・行動の見直しを意識した指導例を、筑波大学附属小学校の高倉弘光先生、平野次郎先生に急遽ご執筆いただきました。

- * 資料は追加・削除等を含め更新する可能性がございます。
- * 感染症に関する情報は、4月8日時点のものに基づいています。
- * ご実践にあたっては、地域や学校の実情に合わせた学習活動の選択や設定、児童同士の距離及び会話の音量や衛生への配慮等を行っていただきますようお願いいたします。

指導例をご紹介している教材や活動と、本資料での掲載ページ

- 1 年 はくに あわせて…2
「◎サンダーバード」ほか…4
「◎おどる こねこ」…6
- 2 年 手びょうしりレーで あそぼう…8
「◎『天国と 地ごく』から」ほか…10
- 3 年 <リズムなかま>で楽しもう！…14
- 3年以上 一人でもみんなでも楽しめるおすすめ的活動(「春の小川」で例示)…17
何の曲かあてっこしよう(「春の小川」で例示)…20
- 4 年 「とんび」…23
- 5 年 「クラブ フレンズ」…27
- 5年以上 和音のはたらきを感じ取ろう…30
- 6 年 「おぼろ月夜」…33
「マルセリーノの歌」「◎ハンガリー舞曲 第5番」…37

1年

p.4 はくに あわせて

平野次郎

新1年生の音楽の授業の始まりは、幼稚園・保育園で親しんできた曲を歌ったり、音楽に合わせて体を動かしたり、お友達と手遊びをしたりして、何よりも楽しくスタートしたいものですが、なかなか難しい現状があります。

しかし、そのような状況の中でも新1年生は音楽の授業を楽しんでいます。

教科書の冒頭を開けてみると、どんな歌があるかを見付けたり、音楽に合わせて体を動かしたり、「かもつれしゃ」で遊んだりする活動が掲載されています。

ここでは、体を大きく動かさなくても、歌を歌わなくても、「拍に合わせて楽しむ」活動をご紹介します。

★活動名「はくに あわせて たのしもう」

活動形態：全員が椅子に座った状態

先生の準備：ウッドブロックやカスタネット、タンブリンなどの小物打楽器

Step1 拍を打つ

(まず、先生が黒板に・を八つ書く)

先生：先生は・をいくつ書いたかな。みんなで数えてみようか。

児童：1, 2, …8。

先生：八つあったね。

今度は、先生と一緒に・を手拍子で打ってみましょう。

全部で8回打ちますね。いきますよ。

(子どもたちは、手拍子を8回打つ)

(先生は、黒板の前に立って、小物打楽器で8回打つ)

先生：上手に打てましたね。みんなの打ち方を見ていると、一人一人面白い打ち方をしていますね。

合わせる必要はないので、自分なりの打ち方をしてくださいね。

【言葉がけポイント】

- ・ 拍にピッタリ合わせて手拍子を打っている子
- ・ 手拍子だけではなく、足や身体のある部分で拍を感じている子
- ・ 先生の打楽器や黒板の・を丁寧に見ている子 など

Step 2 速度を変化させて楽しむ

先生：同じことをもう一度やってみましょう。

(先生は、先ほどよりも速度を上げて打っていく。

事前に「速くしますよ」と伝えるのではなく、「速くなったこと」を子どもに気付かせたい)

(速度を速くしたり遅くしたりと、様々な速度で拍を打つことを楽しむ)

【言葉がけポイント】

- ・ 速度が速くなって楽しんでいる子
- ・ 速度が遅くなくても、1拍ずつ丁寧に打っている子 など

Step3 ○拍目に注目して活動する

先生：次は、八つめの・に○を付けますよ。

先ほどと同じように、手拍子で打ちますが、八つめときはその場に立ってみましょうか。

それではいきますよ!

【言葉がけポイント】

- ・ 8拍目にピッタリその場に立つことができた子 など

(8拍目だけではなく、「4, 8拍目」や「1, 3, 5, 7拍目」など、様々なパターンで拍に合わせて活動することを楽しむ)

Step 4 先生役を交代して楽しむ

先生：今度は先生役を交代してみましょう。

先生も一緒に手伝いますので安心して下さいね。

(先生役を何回か交代して、みんなで楽しむ)

【配慮すること】

衛生管理をした小物打楽器をいくつか用意し、楽器を先生役の子で持ち回さなくてよいように配慮しましょう。難しいようであれば、手拍子で行いましょう。

1年

p.8 おんがくに あわせて からだを うごかそう

高倉弘光

体全体を使って、ダイナミックに活動させたいところですが、「三つの密」を防ぐためにはそれは叶いません。

椅子に座った状態で、p.8 にあるような活動をどのように展開させることができるか、ご紹介します。

★活動名 「このおんがく、どのおんがく？」

活動形態:全員が椅子に座った状態

先生の準備:教科書, 指導書鑑賞 CD から「サンダーバード」「ピンク・パンサーのテーマ」

「どうけしのギャロップ」「なみをこえて」「ぞう」の音源, CD プレイヤー

児童の準備:教科書

Step1 音楽をきいて手を動かしてみる

先生:教科書の8ページを開きましょう。いろいろな動物や、お友達が出ているね。

どんな動物がいるかな?

児童:「くまさん!」「いるか!」「さる!」「ねこちゃん!」「ぞうさん!」……

先生:そうだね。いろいろな動物と一緒に、お友達も楽しそうに動いているね。

これから、音楽を聴きます。どの動物かはまだわからないけれど、音楽が聞こえたら、座ったまま手だけ(腕も可)を、音楽に合わせて動かしてみよう!

(鑑賞 CD で「ぞう」を冒頭から 30 秒ほど再生してフェイドアウト)

(子どもたちは思い思いに手(腕)だけを動かす)

先生:みんなの動き、面白いねえ!

ねえ、みんなの手の動き、ゆっくりした動きなんだけど、どうしてゆっくりなんだろう?

児童:「だって、音楽がゆっくりなんだもん!」

「わたしはぞうさんだと思って、ぞうの鼻のうごきをやってたの!」

先生:へえ、面白いね。よく音楽を聴いていてすばらしいね。これは実はぞうさんの音楽でした。

もう一度かけるから、またみんなの手を動かしてみよう!

(再び「ぞう」を冒頭から 30 秒ほど再生してフェイドアウト)

(子どもたちも再び思い思いに、ぞうをイメージして手(腕)だけを動かす)

先生：うん、面白い！ ○○さんの動き、面白いなあ。

Step2 友達の動きを真似する

先生：○○さん、みんなの前でその動きをやらしてもらえますか？

もう一度、音楽をかけるよ。みんなで○○さんの動きを真似してみよう。

(鑑賞 CD で「ぞう」を冒頭から 1分ほど再生してフェイドアウト)

***上の Step1 と Step2 を、音楽を替えながら繰り返します。**

曲順は次の通りです。拍子による分類ではありませんが、イメージが働きやすい順序だと思えます。

「ぞう」 → 「サンダーバード」 → 「ピンク・パンサー」 → 「なみをこえて」 → 「どうけしのギャロップ」

【指導のポイント】

- ・ 動物を当てっこするときに、正答でなくてもまったく構いません。音楽をよく聴いて思いのまま動いていることが大切です。音楽をよく聴こうとしたり、音楽をよく聴きながら動いている子をほめたりしてあげましょう。
- ・ 面白い動きをしている子を探し、みんなで真似してみます。真似することで、自分の殻を破ろうとするよい姿も見られることでしょう。
- ・ 手の動きだけでも、音楽のニュアンスを表現できる楽しさを味わわせましょう。

1年

p.48 おんがくに あわせて こねこに なって おどろう

平野次郎

「おどるこねこ」の学ばせ方は様々に提案されていますが、教科書ではその一つとして、友達と体を動かしながら、楽曲の特徴や音楽の仕組みに気付いたり、演奏の楽しさを見つけたりしながら、曲全体を味わって聴くことを提案しています。

しかし、今、これまで音楽の授業でも大切にしてきた「仲間と関わりながら」という活動が難しく、制限されているところもあります。そのような状況でも、「音、音楽直球勝負」のような活動をシンプルに行うことで、「おどるこねこ」の特徴に気付きながら、しかも楽しく活動することができるでしょう。

★教材名「おどる こねこ」

活動形態：全員が椅子に座った状態

先生の準備：指導書鑑賞 CD から「おどるこねこ」の音源、CD プレイヤー

Step1 鳴き声のように聞こえるところを見つける

先生：これから、「おどるこねこ」という曲を聴いてみますよ。曲を丁寧に聴いていると、「ねこの鳴き声」のように聞こえるところがあります。
もし、「ここかな」と思うところがあったら、「パッと手を挙げて」みましょう。
何回か繰り返し聴くので、急いで手を挙げなくてもいいですよ。

(鑑賞 CD の「おどるこねこ」の音源を再生する)

(子どもたちは、「ここかな」と思うところで手を挙げる)

先生：丁寧に聴いていましたね。もう一度みんなで、「鳴き声のように聞こえるところ」を確かめながら聴いてみましょう。

(再び「おどるこねこ」を再生し、先生も手を挙げて皆で確認しながら聴く。
全部で18回(12回/6回)あります)

先生：丁寧に聴いていましたね。「鳴き声のように聞こえるところ」を、ここでは「合いの手」と呼ぶようにしましょう。

【指導のポイント】

- ・ ここでは18回という回数にこだわることなく、「鳴き声のように聞こえるところ」=メロディーの呼びかけに対するこたえ(合いの手)を、丁寧に聴き取ることを大切にしましょう。

ここで、全員が聴き取ることができていると、その後の活動もさらに楽しめるようになります。

Step2 合いの手を聴き取りながら、一人ずつ立ってみよう

<お試し>

先生：合いの手のところが聴こえたら、一人ずつその場に立っていきましょう。

まずは、試しに最初の二人くらいまでやってみましょう。

【指導のポイント】

- ・ 言葉で丁寧に説明するよりも、「最初の二人をお試して」というように、実際に活動をしながらか説明していく方が伝わりやすいでしょう。

<1回目>

先生：それでは、もう一度最初からやってみましょう。今度は最後まで曲を聴きますよ。

(鑑賞 CD で「おどるこねこ」の全曲を再生する。

合いの手の部分になったら、子どもたちは一人ずつ立ちながら、最後まで聴く)

先生：何人の友達が立つことができましたか。

児童：18人だね。

先生：曲を最後まで聴いて、何か気付いたことはありませんか。

児童：途中、合いの手がないところがありました。

児童：最後は本物のねこや犬の鳴き声が聴こえてきました。

先生：そうですね。最後は本物のねこや犬の鳴き声のようですね。

<2回目>

先生：まだ最後の人まで(36人学級を想定)行っていないので、2回目もやってみましょう。

今度は、最後の本物のねこの鳴き声が聴こえてきたら、立っている人はその場にすぐ座るようにしましょう。

(再び「おどるこねこ」の全曲を再生する。1回目と同じように活動を進める)

【この後の活動として…】

- ・ 一人ずつ立つような活動をしないで、椅子に座ってじっくりと味わって聴くような活動
- ・ 曲の構成(A-B-A-コーダ)に合わせて、お話を想像して作るような活動

2年

p.4 手びょうしりレーであそぼう

平野次郎

「手拍子リレー」はとてもシンプルな活動ですが、進め方次第では、音楽づくりにもつながる、深い深い、活動になります。一人一人が音の順番を守って打つこと、様々な打ち方を試すこと、友達の打ち方を真似すること、速度を変えるなどの条件を変化させて何度も楽しむこと、などが活動のポイントになります。

★活動名「手びょうしりレーであそぼう」

活動形態：全員が椅子に座った状態／大きな一つの円

Step1 全員で手拍子を打つ

先生：先生に合わせて、全員で拍を1回打ってみましょう。

（「せーの」と言ってもいいですし、何も言わないで打ち始めてもよいでしょう）

【言葉がけポイント】

- ・ 先生が「せーの」と言わずに、拍がピッタリあった子 など

先生：もう一度試してみましょう。

（先生は大きめの手拍子を打つようにします）

（打つ大きさを変えながら、何度か楽しめます）

Step2 一人ずつ手拍子を回す

（最初に打つ子や、手拍子を回す向きを確認します）

先生：では一人ずつ手拍子を打って、回していきましょう。

前の友達が打ってから、自分が打つようにしましょう。

（一人ずつ手拍子を打って回す）

【言葉がけポイント】

- ・ 身体で拍を感じながら打っている子

- ・ 友達の表現をよく見ている子, 聴いている子 など

Step3 友達の打ち方を真似する

先生：次は, 手拍子リレーを2周することになります。

1周目を打っているときに, 「あの子の打ち方を, 真似してみたいな」という子を見付けてください。

見つかった人は2週目に, 見つけた友達の打ち方を真似して打ってみましょう。

(一人ずつ手拍子を打って2周回す)

Step4 強さや速さ, 打ち方を変えて, 「手拍子リレー」を楽しむ

<速さを変える>

- ・ なるべく速く回す
- ・ 前の人との間を考えながら回す

<強さを変える>

- ・ なるべく大きく打つ
- ・ なるべく小さく打つ

<打ち方を変える>

- ・ 打つ場所を変えてみる
- ・ 打ち方を変えてみる

【配慮すること】

- ・ 教室や音楽室だけではなく, 一人一人の間隔を開けながら, 体育館や校庭, プレイルームなどで活動することも想定できます。

2年

p.6 強さやはやさをかんじて体をうごかさう

高倉弘光

体全体を使って、ダイナミックに活動させたいところですが、「三つの密」を防ぐためにはそれは叶いません。

椅子に座った状態で、教科書 p.6～7 にあるような活動をどのように展開させることができるか、ご紹介します。

★活動名 「音楽に合わせて〇〇を動かそう」

活動形態:全員が椅子に座った状態

先生の準備:教科書, 指導書鑑賞 CD「『天国と地ごく』から」「かめ」「山のま王のきゅうでんにて」の音源, CD プレイヤー

児童の準備:教科書

Step1 「『天国と地ごく』から」と「かめ」の当てっこクイズ!

先生:教科書の6ページを見ましょう。二つの曲が紹介されているね。「天国と地ごく……」と「かめ」だね。

今から CD で音楽をかけるよ。「天国と地ごく……」と「かめ」、さて、どちらでしょう?

(鑑賞 CD で「『天国と地ごく』から」の冒頭から 1分ほどを再生してフェイドアウト)

児童:天国と地ごく!

先生:どうしてそう思ったのかな?

児童:「だって、強いところがあったり弱いところがあったりして、天国と地獄っていう感じ」「亀かなとも思ったけれど、亀はこんなに速く動けないもん!」

先生:はい、正解です。今聴いたのは「天国と地ごく……」でした。そうになると、「かめ」も聴きたくなるね。どんな音楽だと思う?

児童:「きっとおそい音楽だと思う」
「うん、ゆっくりした感じ」

先生:では、聴いてみましょう。「かめ」です。

(鑑賞 CD で「かめ」の冒頭から 30秒ほどを再生してフェイドアウト)

児童:あ～! やっぱりゆっくりした音楽だった!

先生:みんなの予想が当たりましたね。すばらしい。

児童：やったあ！

Step2 「『天国と地ごく』から」で活動する

先生：それでは、もう一度「天国と地ごく……」を聴きます。

今度は、トライアングルの音が聞こえたら、トライアングルを打つ真似をしましょう。自分が演奏しているようにね。

さあ、片手にトライアングルを持つ真似をして、もう片方の手には棒（ビーター）を持ちますよ。

（鑑賞 CD で「『天国と地ごく』から」の冒頭から 45 秒ほどを再生してフェイドアウト）

児童：面白～い！ でも、先生、途中からトライアングルの音、なくなっちゃったよ！

先生：そうだね。よく聴いていましたね。

では、今度は 1 列ずつ前に出てきて、今のところをもう一度聴きながらトライアングルを打つ真似をしてみましょう。

（全部の列で同様に行うと、何度も同じところを聴くことができる）

先生：楽しかったね。この曲にはまだ続きがありますよ。最初から最後まで聴いてみましょう。

トライアングルを打つ真似をして、トライアングルが聞こえなくなったら手（腕）だけ音楽に合わせて自由に動かしてみよう。

（鑑賞 CD で「『天国と地ごく』から」の全曲を再生する）

Step3 「かめ」で活動する

先生：「かめ」をもう一度聴きましょう。亀が海の中で泳いでいるように腕を動かしながら聴きましょう。

（鑑賞 CD で「かめ」の冒頭から 1 分ほどを再生してフェイドアウト）

児童：おそ～い！

先生：そうだね。〇〇さんの動きが音楽にぴったり合っていたなあ。みんなも〇〇さんの動きを真似してみよう。

(再び「かめ」の冒頭から 1分ほど を再生してフェイドアウト)

先生：みんな、音楽をよく聴いて動くことができたね。すばらしい！この曲には続きがまだあるよ。
最初から最後まで聴きましょう。音楽に合わせて座ったままで泳ぐ動きをしてみましょう。

(鑑賞 CD で「かめ」の 全曲 を再生する)

【指導のポイント】

- ・ 音楽をよく聴いている子、音楽に合った動きをしている子をほめます。
- ・ 1列ずつ前に出てきて動いたり、一人の子どもの動きを真似させたりすることで、何度も鑑賞する場を設けることができ、学習が深まります。

Step4 「山の ま王の きゅうでんにて」で活動する

先生：今度は7ページですよ。「山のま王のきゅうでんにて」って書いてあるね。絵や写真もあるね。
ところで『キュウデン』ってなんだろうね？

児童：お城のこと！

先生：なるほど。では、この音楽って、どんな音楽だろう？

児童：「魔王が棲んでる宮殿だから、こわい音楽！」
「うん、絵もこわい感じだよ」

先生：では、始めの部分を聴いてみましょう。

(鑑賞 CD で「山の……」の冒頭から 40秒ほど を再生してフェイドアウト)

先生：どうでしたか？

児童：「うん、やっぱりこわい感じ」
「のそのそ歩いている感じ」
「小さい音だったからそっと歩いているのかも……」

先生：なるほどね。では、人形が机の上を歩いている感じで、指や手を机の上で歩かせてみましょう。
でも、音楽をよく聴いて、音楽に合わせて歩かせてね。

(再び「山の……」の冒頭から 40秒ほど を再生してフェイドアウト)

先生：みんな上手でした。チョビチョビ指を歩かせている人もいたね。

児童：だって、小さな音だったから……。

先生：そうかあ。実はこの曲もまだまだ先があるんだよ。今度は最初から最後まで聴いてみよう。
また机の上を指で歩くようにしてみよう！

(鑑賞 CD で「山の……」の全曲を再生する)

児童：うわあ！

先生：どうして「うわあ！」なのかな？

児童：だって、教科書にもかいてあるけれど、強さや速さが変わったんだもの！

先生：そうですね。この音楽はどんな音楽だったかな？

言葉で言ったり、文で書いてみたりしましょう。

【指導のポイント】

- ・ 強さや速さの変化に応じて動きを変化させている子をほめたり、なぜ動きが変化しているのかを発問したりして、この音楽の面白さを言語化させるといっそう学びが深まります。
- ・ 強さや速さが増すに連れて、自然に声が出てきます。教室が大騒ぎにならないよう、「声を出さずに聞こえたこと、感じたことを指(手)の動きだけで表すことができたらすごいね」などと声かけします。

3年

p.5 <リズムなかま>で楽しもう！

平野次郎

教科書には五つのリズムが示されていますね。最終的には同じリズムの仲間ごとに集まるように活動設定されていますが、集まることができなくても、席でリズム打ちし、五つのリズムをつなげたり、重ねたりすることで、リズムに親しむことができます。

まずは一つずつ丁寧にリズムを打っていきましょう。そして、教科書に示されている五つのリズムだけではなく、子どもたちがその場でつくったリズムで、この活動を楽しむのも面白いでしょう。

★活動名「五つのリズムで楽しもう」

活動形態：全員が椅子に座った状態

先生の準備：教科書、ウッドブロックやタンブリン、カスタネットなどの小物打楽器（先生が拍をキープする場合）

児童の準備：教科書

Step1 五つのリズムを丁寧に打つ

（まず、先生が黒板に五つのリズムを書く。それぞれナンバリングをする）



先生：黒板に五つのリズムを書いてみました。教科書の5ページと同じですね。

先生が間違えて書いていないか、丁寧にみてくださいね。

(全員で教科書と見比べて確認する)

先生：それでは1番からリズムを打ってみたいのですが、まずは心の中、頭の中でリズムを打ってみましょう。音は鳴りませんが、きっと皆さんの心の中、頭の中に鳴ると思いますよ。
それでは、いきますよ。1番どうぞ!

(先生の「1番どうぞ」は拍にのせて発し、子どもたちは心の中や頭の中でリズムを打つ)

(この時は、シーンとします…笑)

【指導のポイント】

- ・ すぐに手拍子を打つことも大切なのですが、心の中、頭の中で打つと、いい意味で「間違い」がわからなくなります。それから、「シーン」と静まり返った環境で活動を行うと集中力も高まります。

先生：上手に打てていましたね。では実際に手拍子で打ってみましょう。1番どうぞ!

(1番を手拍子で打つ)

先生：拍に合わせて全員がピッタリ合ったら、2番のリズムに行きましょうね。

(何度か1番のリズムに挑戦する)

先生：みんながピッタリ合ってきたので、2番に挑戦してみましょう。
2番もまずは心の中、頭の中で打ってみますよ。

(このように5番のリズムまで一つずつ丁寧に打つ)

【指導のポイント】

- ・ このようなリズム打ちの活動は、集中力が低下することが予想されます。そこで、1番がある程度打てるようになったら、「一人で表現する場面」を設定するとよいでしょう。その際は、「誰か一人で挑戦してみたい人」と尋ねることをおすすめします。くれぐれも「できる人」というような、技能を重視しているような尋ね方は控えるようにしましょう。
- ・ Step1ではリズムを打つだけでなく、「1～5番の中で一番打ちやすいのはどれかな」とか、「1～5番の中で一番打ちにくいのはどこかな」などを尋ねるといいでしょう。そうすることで、打ち間違えた子がいたときに、「あのリズム難しいからね」と、クラス全体で共感することができる

ようになります。

Step2 リズムをつなげて打つ

<順番に>

先生：次は、1番から5番までを続けて打ってみましょう。

そのときのリズムを打ちながら、次のリズムも考えながら打てるといいですね。

それではいきますよ。

1番どうぞ→「**タンタンタンウン**」→2番どうぞ→「**タンウンタンウン**」…

(先生の「1番どうぞ」は拍にのせて発し、リズムとリズムをつなぐようにする)

<ランダムに>

先生：次は、ランダムに打ってみましょう。

1番どうぞ→「**タンタンタンウン**」→3番どうぞ→「**タンタタタンウン**」…

(Step1の【指導のポイント】にも示したように、ここでも「一人で挑戦できる場面」を設定するとよいでしょう)

Step3 リズムを重ねて楽しむ

先生：1～5番のリズムの中で、今一番打ちたいリズムを選んでみましょう。

【指導のポイント】

- ・ 「どうしてそのリズムを選んだのか」、理由を尋ねるのも面白いでしょう。感覚的に「何となく」と答える子もいるでしょうし、リズムを論理的に捉えて説明する子もいるでしょう。

先生：では1番から順番に重ねてみましょう。自分が選んだリズムがきたときに打っていきますよ。

どのリズムが多いか、少ないかは、今はわかりませんね。

多かったチームは、周りの音を聴きながら、音の大きさを合わせられたらいいですね。

【指導のポイント】

- ・ ここではリズムを重ねる活動を示していますが、重ねる時の「始め方」や「終わり方」を考える活動を取り入れるのも面白いでしょう。例えば、全部が重なったら、1番から順に抜けていくなどです。

3年以上

一人でもみんなでも楽しめる「おすすめの活動」(楽譜との関わり編) 平野次郎

ここでは一つの題材や教材をもとにした活動の紹介ではなく、様々な活動で共通して楽しめるようなおすすめの活動を紹介します。

本来は実際に歌いながら、その楽曲の特徴を捉えたり、気付いたりすることが望ましいのですが、それが難しい場合に、子どもたちの楽譜との関わり方をひと工夫することで、同様の気付きを得ることができます。

これらの「おすすめの活動」のポイントは、拍、旋律、速度などの音楽を形づくっている要素を手がかりにして、それらとの関わりを楽しみながら行うことです。

従来、歌唱の活動での子どもたちの姿を見ていると、教科書の楽譜のページではなく、歌詞のページだけを見ながら歌っている子もいます。もちろん歌詞も大切に扱う必要があるのですが、楽譜との関わりも大切にしていきたいと思います。

★「拍トントン」

- 歌唱や器楽の曲を扱うときにおすすめ
- 教科書の楽譜を「ただ見ている」だけではなく、指で拍を感じながら楽譜を追いかけていきます。

<実際の方法> (「春の小川」を例にして紹介します)

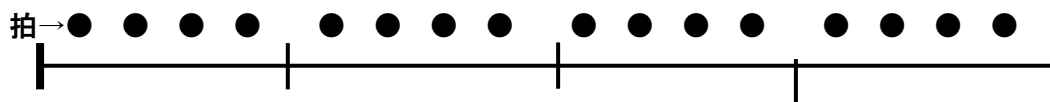
先生：これから「春の小川」を聴きます。

皆さんは聴きながら、拍に合わせて人差し指で楽譜を「トントン」していきます。

(この曲は4分の4拍子なので、1小節で4回「トントン」することになりますね。)

先生：それでは準備をしてください。「春の小川」の速さに合わせて、「トントン」していきます。

音の高低は気にしないで、拍を意識して聴いていきましょう。



★「旋律なぞり」

- 歌唱や器楽の曲を扱うときにおすすめ
- 旋律の流れ(高低)を意識して聴くことができます。

<実際の方法> 「春の小川」を例にして紹介します)

先生：これから「春の小川」を聴きます。

皆さんは聴きながら、人差し指で旋律をなぞりながら聴きます。

音符の黒い丸の部分(符頭)をなぞるようにしましょう。

先生：それでは準備をしてください。

指でなぞりながら、何か気付いたこと、見付けたことがあったら、後で教えてくださいね。

【指導のポイント】

- ・ 楽譜を丁寧にしながら表現することは、意外と難しいものです。ですから、ここでは指で楽譜をなぞることで、旋律の特徴に気付けるようにしていきます。
- ・ 丁寧に「旋律なぞり」をしていくと、例えば、「2段目と4段目の旋律が同じだ」とか、「3段目だけ、違った動きをしているよ」などの気付きを得ることができるでしょう。これらは歌詞だけを丁寧に見てもわからないことです。ですから、楽譜との関わらせ方もひと工夫することが大切なのです。

★「ピッタリ遊び」

- 歌唱や器楽の曲を扱うときにおすすめ
- 楽曲の速度を意識して、「拍に合わせて表現すること」を楽しみながら行いたいときにおすすめ。
- 「拍トントン」や「旋律なぞり」と関連付けながら遊ぶことをおすすめします。

<実際の方法> 「春の小川」を例にして紹介します。

先生：今から「春の小川」の1番を流します。皆さんは「拍トントン」をしながら、頭の中で歌いながら聴きますよ。

先生が途中でCDの音量を下げますが、驚かないでくださいね。

皆さんは頭の中で歌いながら、「拍トントン」を最後までキープしていきます。

最後の2小節前くらいになったら、再び音量を上げますので、その時に自分の「拍トントン」とピッタリ合っていたらいいですね。

「ピッタリ遊び」意外と難しいですよ。それでは行きますよ。

(指導書表現CDから「春の小川」の範唱音源を再生する。

冒頭の2小節くらいで音量を下げ、最後の2小節前くらいになったら再び音量を上げる)

【指導のポイント】

- ・ 「ピッタリ遊び」は意外と難しい活動です。子どもたちは速度をピッタリ合わせようと、意欲的に

活動することでしょう。

- ・ 本来は「ピッタリ歌い」というように、歌いながら活動するのですが、ここでは「拍トントン」や「旋律なぞり」と関連付けながら活動することをおすすめしています。きっと、ピッタリ合った時に、「お〜!」という歓声があがることでしょう。

3年以上

何の曲かあてっこしよう

平野次郎

歌うことがなかなか難しい中でも、楽曲との出会いの場は大切に、そして丁寧にあげたいものです。子どもたちを楽曲に出合わせるとき、先生が「教科書の〇ページを開いて」と伝えるのも方法の一つですが、そこを、このような状況だからこそひと工夫してみませんか。

歌うことは難しいかもしれませんが、ここでは楽曲の特徴を楽しみながら捉えることができるような活動を紹介します。どうか、ゲーム感覚で子どもたちと一緒に楽曲との出会いを楽しみましょう。

★活動名「何の曲かな？」

活動形態：全員が椅子に座った状態

先生の準備：教科書、指導書表現 CD などの音源、CD プレイヤー

児童の準備：教科書

Step1 簡単な説明をする

先生：今日は新しい曲を紹介します。でも先生から「この曲をやるよ」と伝えるのではなく、皆さんの力で見つけ出して欲しいと思います。

簡単に活動のルールを説明しますね。皆さんは「私は誰でしょうクイズ」は知っていますか。

例えば、先生がトマトになったとします。皆さんは先生がトマトであることは知りませんが、いくつかの質問をしながら、その答えを探していきますよね。

例えば、「それは、赤いですか」とか、「それは丸いですか」というようにして、トマトであることを見つけ出していきます。その音楽バージョンということです。

ですから、なるべく先生への質問は、「音楽的な質問」にしてくださいね。

例えば、「教科書の〇ページですか」とか、「こんなイラストが載っていますか」というような質問には、先生は答えませんよ。

Step2 楽曲を予想する

先生：では、「先生がこの曲紹介しそうだな～」という曲を予想します。

今から 10 秒数えるので、1 曲選んでくださいね。

(子どもたちは 10 秒の中で、教科書の中から 1 曲を選ぶ)

先生：では、どの曲を選んだのか、一斉に先生に見せてください。せーの。

(子どもたちは選んだ教科書のページを先生に見せる)

先生：なるほど。自分で選ぶことができましたね。

Step3 何の曲かをみんなの力で見つけ出していく

先生：では、先生がその曲になり切るので、皆さんは先生にいくつか質問をしてください。
それでは、質問がある人？

(ここでは、「春の小川」(3年)を例にあげて紹介していきます)

児童：その曲は、長い曲ですか？

先生：そうだね。小節で表すと、1番は16小節あります。

(16小節と聞いた子どもたちは、自分のページが16小節でないと、他の楽曲を探しに行くようになります。これでOKです)

児童：その曲は速い曲ですか？

先生：速さに注目できたね。楽譜では速さは楽譜の最初の方に書いていますよ。
教科書では、「♩=104ぐらい」と示されていますよ。

児童：その曲には4分休符がいくつありますか？

先生：お休みに気付けたんだね。その曲の1番には四つ、4分休符がありますよ。

児童：曲の最初の音は「ミ」ですか？

先生：音の高さに注目できたね。ちなみに終わりの音は「ド」ですよ。

(このようなやり取りを続けていきます)

【指導のポイント】

- ・必要に応じて板書をしながら進めるとよいでしょう。

Step4 正解発表

先生：それでは、どんな曲なのか聴いてみましょう。

【指導のポイント】

- ・先生は用意した音源を再生します。そして、1番の歌などが始まる直前で停止(ストップボタン)

を押します。

- ・ 前奏を聴きながら楽曲の特徴をつかむこともできますし、1番が始まる直前で停止を押すと、「先生、この先聴かせて」という声もあがることでしょう。
- ・ 歌うこと、そして演奏することは叶わないかもしれませんが、曲との出合わせ方をひと工夫することで、その楽曲の特徴をつかむことはできます。その後、別に紹介している「ピッタリ遊び」や「拍トントン」、「旋律なぞり」などの活動を展開させるのもよいでしょう。

4年

p.30 せんりつの特ちょうを捉える -歌唱の授業について-

高倉弘光

息を大きく吸ったり吐いたりする活動が制限されるので、歌唱の授業に困難が生じています。
ここでは、歌唱教材について、学習活動のヒントをご紹介します。

★活動名 「『とんび』の歌を知ろう」

活動形態:全員が椅子に座った状態

先生の準備:教科書, 大型楽譜, 指導書表現 CD の「とんび」の範唱音源, CD プレイヤー

児童の準備:教科書

Step1 歌詞などに着目して

先生:教科書の30ページを開きましょう。「とんび」という曲です。

本当は歌いたいけれど、今回は歌わないで学習を進めます。

みんな<とんび>っていう鳥を知っていますか?

児童:「はい」

「いいえ」

「教科書に絵が出ているよ」

先生:そうですね。絵がありますね。歌詞を心の中で一度読んでみましょう。

さて、<とんび>とはどんな鳥なのでしょうね?

歌詞や絵から読み取れることを発表しましょう。

児童:「空の高いところを飛ぶ鳥」

「ピンヨローって鳴く鳥」

「輪を描いて飛ぶ鳥」

先生:ピンヨローって鳴くんだね。聞いたことある?

児童:「ある」

「ない」

先生:ところで、1番と2番の歌詞は、パッと見たところ同じだね。

児童:「はい」

「いいえ」

「『とべ』と『なけ』のところが違います」

「1番は『とべ』『なけ』で、2番は『とぶ』『なく』です」

先生:なるほど、そうだね。

『とべ』と『とぶ』だと、歌にしたときどんな違いが出るのかな?

児童:『とべ』だと、とんびに呼びかけている感じで、『とぶ』だと、とんびを地上から見ていて飛んでいる様子を歌っている感じかな?

先生：なるほど。普段の音楽の授業では、ここまで深く詞を読み取ることはありませんでしたが、いろいろなことが読み取れますね。

Step2 体を動かす活動を取り入れて、範唱音源を聴く

先生：では、「とんび」を実際に聴いてみましょう！

(表現 CD で「とんび」の範唱音源を再生する)

先生：どんな感じでしたか？

児童：「本当に呼びかけているみたいでした」

「<ピンヨロー>って鳴いているところの旋律が心に残る感じでした」

先生：ではもう一度聴きましょう。今度は、旋律の動きを手の動きで表しながら聴いてみましょう。

一番低い音は下のドです。そのときは手を机の天板あたりで表現します。

一番高い音は上のドですね。高いドは腕を高く真上に伸ばしたあたりで表現します。

ではやってみましょう。(旋律の動きを手の上げ下げをすることで感じ取る)

(再び「とんび」を再生する)

先生：よくできていましたね。何か気づいたことはありますか？

児童：「音の上がり下がりが激しいということがわかりました」

「1, 2, 4段目は動きがとても似ていて、3段目の鳴き声のところだけ違うということがわかりました」

先生：よく気づきましたね。

***以下の、先生による歌唱については地域や学校の状況に応じる。**

難しい場合は表現 CD を利用して進める。

先生：では、1段目だけ先生が歌うので、皆さんは手の動きだけもう一度やってみましょう。

(1段目を聴きながら、児童は手の動きだけをする)

先生：何か気づいたこと、考えたことはありますか？

児童：とんびに呼びかけているところが、音がどんどん上がっていて、とんびが本当に飛んでいっているようになっていきます。

先生：なるほど。面白いね。歌詞の内容と旋律の動きには関係があるのかもね。

では、今度は1段目と2段目で同じことをやってみましょう。

(1～2段目を聴きながら、児童は手の動きだけをする)

先生：何か気づいたこと、考えたことはありますか？

児童：「1段目と2段目はほとんど同じだけど、1段目は終わらない感じで、2段目は終わったというか、落ち着いた感じ」

「2段目の終わりで空の高いところに着いたのかもね」

先生：なるほど、面白い考えですね。

児童：「先生、教科書の楽譜にとんがった三角みたいなものがあるよ」

「右のページに『クレッシェンド』『デクレッシェンド』って書いてある」

先生：はい。よく気づきましたね。

(「クレッシェンド」と「デクレッシェンド」の説明をする)

児童：「わかった！音が高くなっていくところにクレッシェンドがついていて、音が低くなっていくところにデクレッシェンドがついている！」

「ホントだ！」

先生：なるほど。ではもう一度1段目と2段目を歌うから、みんなは手の動きをしてみてください。

(先生の歌だけで1～2段目。児童は手の動きだけをする)

児童：うん、ホントだ！旋律の動きと音の強さは関係あるみたい。

先生：なるほど！いつもそうとは限らないかもしれないけど、この曲の場合はそうなっているみたいですね。素晴らしい発見です！

先生：では、もう一度最初から最後まで聴きましょう。みんなは手を動かしているつもりで空を飛ぶとんびを思い浮かべながら聴いてください。

(表現CDで「とんび」の範唱音源を再生する)

【指導のポイント】

- ・ 歌唱教材を通して、主に音楽に関わる「知識」を得るための学習の流れを意識します。その過程で「思考力」などを育てられるように発問などを工夫します。
- ・ 上のような学習を通して、歌詞と旋律の動き、旋律の動きと強弱との関係についての気づきが生まれることを期待しています。そのとき「体を動かす活動」を取り入れることで、より効果的になりますし、実際には声を出して歌えませんが声の代わりに体の動きでこの曲を表現し、曲想を

感じ取ることにもつながることが期待できます。

- ・ 2回続く鳴き声「ピンヨロー」のフレーズを、どのように強弱表現すると良いか意見を出し合ったり、自分の考えをノートやワークシートに書き込んだりすることも、発展的な学習になると思います。

5年

p.7 強弱を変えてハンドクラップを楽しもう！

高倉弘光

子どもたちが一定の距離を保って同じ方向を向き、椅子に座った状態で活動できます。個々の子どもの思考力や表現力を育てる活動を紹介します。

★教材名「クラップ フレンズ」

活動形態：全員が椅子に座った状態

先生の準備：教科書、「クラップフレンズ」の大きな楽譜、子どもたち個々に書き込みができる「クラップフレンズ」の楽譜

児童の準備：教科書

Step1 強弱記号を覚えよう！

先生：教科書の7ページを開きましょう。3段の、リズムだけの楽譜があります。

いきなり全部は難しいから、最初の2小節だけ手拍子で打ってみよう！ さんはい！

児童：タンタンタタン タンタン(うん)

先生：そうだね。よくできました。今度は先生だけ打ってみます。よく聴いていてね。

(同じリズムをフォルテで1回。その後少し間を空けてピアノで1回打つ)

児童：「あ！強さが違った！」

「うん、教科書にも出ているよ！」

先生：そうです。そこに気づいてほしかったんです。

今日は強弱記号のことをみんなに伝えるね。

(黒板に、左側から *p*, *mp*, *mf*, *f* の順に板書。それぞれの読み方と意味を教示)

先生：わかりましたか？ では、先ほどの2小節のリズムをずっと繰り返し打ちましょう。

先生は、黒板の強弱記号を指で示しますから、みんなはその記号が示す強さでリズムを表現しましょう！

(教師は、ランダムに黒板の強弱記号を指す。一つの記号で最低リズムパターンを2回繰り返す。そうしないと子どもたちがついて来られなくなる)

児童：面白い!

先生：では、今度は先生の役(指揮者役)をやってみたい人はいますか?

児童：はい!

(何人が黒板のところに出てきて、上と同じ活動をする)

Step2 強弱をつけてみよう!

先生：では、「クラップ フレンズ」の3段目だけ、手拍子で演奏しましょう。強弱記号もついているから気をつけて!

児童：「先生! なんだか算数で使う不等号みたいな記号があるよ!」

「うん、3小節目のリズムもわからないな」

「それに、最後の小節にやっぱり不等号みたいな記号が三つ!」

先生：そうだね。では、それぞれを説明しますからよく聞いていてくださいね。

(クレッシェンド、デクレッシェンドの確認、アクセント、付点4分音符について教示)

先生：では、3段目をみんなで打ってみよう! さんはい!

児童：タンタンタン タンタン(うん)

ターンタタン タンタン(うん)

先生：よくできました。強弱もしっかり表現できていたね。

先生：では、これを一人で表現できる人はいますか?

(一人ずつ表現したり、列ごとに表現したりして演奏頻度を高める)

先生：では、次に、教科書の楽譜にとらわれずに、自分だけの強弱表現をつくってみましょう!

児童：面白そう!

先生：3段目は音楽の終わりの部分だね。どうやって終わるのがいいと思うか、考えて強弱記号をワークシートに入れて、いろいろな可能性を試してみよう!

(一人一人の活動。机間指導をして、行き詰っている子どものケアをしたり、いろいろな可能性にチャレンジできるよう助言したりする)

先生：少し自分の表現を練習できたら、先生に聴かせにきてください。

先生：さあ、みんなできましたね？ 誰かみんなの前で発表してくれる人はいますか？

(何人かに表現してもらい、一人一人の特徴、よさなどについて発表し合う)

Step3 グループでつなげて表現しよう!

先生：みんな、それぞれ素敵な表現ができたね。最後にみんなの表現をつなげてみましょう。

児童：えっ？ どうやって？

先生：4人グループになって、(間隔を十分にとって)全員で1~2段目を教科書の通りに演奏して、3段目はAさんだけが演奏する。

すぐにまたはじめから全員で2段、そして3段目はBさんだけ…

という具合にしてつなげてみましょう。

(全員 1,2 段目→Aさん 3 段目→全員 1,2 段目→Bさん 3 段目→…)

児童：先生！ 違うやり方を考えたよ！ はじめは全員で2段目まで演奏して、あとは3段目をAさんBさんCさんDさんってつなげるんです。さっきのは長すぎてちょっとつまらないと思ったんです。

先生：素晴らしいですね！ 自分でこちらの方が面白い!と思う方法を考えつくなんて。では、早速その方法でもやってみましょう!

(全員 1,2 段目→Aさん 3 段目→Bさん 3 段目→Cさん 3 段目→Dさん 3 段目)

【指導のポイント】

- ・ 強弱記号を知識として学びますが、実際の演奏を通して学ぶことが大切です。
- ・ そのとき、手拍子なら手軽にできますし、声を出すこともなく、この制限下では有効な活動になります。
- ・ 「自分ならこうしたい」「こういう表現が好き!」という気持ちを育てることに主眼を置くのがこの学習の大切なポイントになります。

5年(以上)

p.7 和音のはたらきを感じ取ろう

平野次郎

和音を扱うことは高学年が多いように感じます。合奏の中の一つのパートとして鍵盤楽器などで和音を奏でたり、「茶色の小びん」などの楽曲と関連付けて、和音が移り変わる面白さを感じ取ったりすることが実際の扱い方になるでしょうか。また、和音の移り変わりを感じ取りながら、旋律づくりに発展させるなど、和音を扱うことは、高学年の学習の魅力の一つでもあります。

実際に演奏をすることや、和音をもとにして音楽づくりを行うことは難しい状況ですが、ここでは、和音の響きに合わせてポーズをする、ポーズを考えるという活動を紹介します。学校の世界では一般的な、「気を付け→礼→直れ」の「じゃーん、じゃーん、じゃーん」をもとにして学びを進めていきます。45分で行うというよりは、毎時間の授業の始めに、「常時活動」として行うことが効果的です。

先生方も様々なバリエーションを加えて、和音の響きに合わせてポーズする活動を子どもたちと一緒に楽しみましょう。

★活動名「和音のひびきに合わせてポーズをしてみよう」

活動形態：全員が椅子に座った状態

先生の準備：ピアノなどの鍵盤楽器

(タブレット端末のアプリケーションやキーボードの伴奏機能でも代用可)

Step 1 基本のパターンで楽しむ

先生：さあ、授業を始めましょう。

【楽譜1】



I (C) V (G) I (C)

【指導のポイント】

- このような活動を初めて行う場合も、子どもたちに説明をしないで、いきなり「基本のパターン」をピアノで弾くといいでしょう。きっと、ピアノに合わせて、「気を付け→礼→直れ」となるはずですよ。
- ピアノを弾く時、両手ではなく、右手だけでも大丈夫です。

- ・ 和音の転回形はお好みに合わせて変えてください。

先生：三つ和音を続けたんだけど、どうして最後は、もとの姿勢に戻ったのかな。

児童：最初と同じ和音だったから。

児童：何となく「戻った感じ」がしたから。

先生：それでは、もう一度やってみましょう。

(【楽譜1】を基本にして、リズムや伸ばす長さを変えたりする)

(例えばVの和音を長く鳴らしたとすると…)

児童：先生、ずっと礼をしていなければいけないの。早く戻して！

(例えば各和音の2分音符を、4分音符二つのリズムに変えて弾いたりすると、拍を取りながら一連の動きをする子もいます)

児童：何だか、ロボットのような動きになりそう。

Step 2 和音の響きを変えて楽しむ (Step 1とは別の時間に行うことをおすすめし

ます)

ここでは和音の響きを変えてみましょう。

例えば Step 1 を常時活動として行った次の音楽の時間の最初に、【楽譜2】を弾いてみましょう。子どもたちはどのような反応をするでしょうか。

私のこれまでの実践では、「あれ？」と困った表情をする子、ズッコケてしまう子、「自分なり」の新しいポーズを考える子など、様々でした。素直に和音の響きを楽しむためには、事前に説明せずに、いきなり和音を奏でることが大切だと考えます。

< I → V → IV (C → G → F) >

【楽譜2】

< I → V → VI (C → G → Am) >

【楽譜 3】



< イ短調の I → V → I (Am → E → Am) >

【楽譜 4】



【指導のポイント】

- ・ ここには【楽譜 2～4】を示しました。

それぞれの和音の響きに合わせて、「気を付け→礼→直れ」ではなく、「自分なりのポーズ」を考えていきましょう。そして、ある子が考えた動きを全員で真似をしたりして、共有できるように働きかけていきましょう。

< おまけ！ カノンの和音進行 >

【楽譜 5】



時間的に余裕があれば、ぜひ「カノンの和音進行」にも、「自分なりのポーズ」を一つ一つ付けていくのも面白いです。

もちろん、パッヘルベル作曲の『カノン』を聴きながら、それに合わせて自分が作ったポーズを付けていくのもよいですし、「カノンの和音進行」が使われている楽曲は数多くありますので、それらを取り入れてもよいでしょう。

6年

p.8 につぼんのうた みんなのうた

平野次郎

「おぼろ月夜」は、高野辰之、岡野貞一によって作られました。同じ歌唱共通教材として扱われている「ひのまる」「春がきた」「春の小川」「もみじ」などもこの二人による作品です。

さて、歌うことが難しい状況ですが、この季節に「おぼろ月夜」を扱いたいものです。教科書には見事な菜の花畑の様子が掲載されています。もちろんその写真を丁寧にしながら、楽曲を味わうのもいいでしょう。

そして、ここで紹介するような「音楽を形づくっている要素」を手がかりにして、おぼろ月夜を深く学び、親しんでいくような学び方も取り入れてみてください。

楽曲のサイトなどを見ると、「ふるさと」と同じように「おぼろ月夜」をカバーしている歌手も多くいます。それらの曲を聴き比べるような活動を取り入れると、歌手によって表情が異なる「おぼろ月夜」の世界を楽しむこともできるでしょう。

★活動名 「おぼろ月夜」のみりよくを探ろう

活動形態：全員が椅子に座った状態

先生の準備：教科書、指導書表現CDの「おぼろ月夜」の範唱音源、CDプレイヤー

児童の準備：教科書

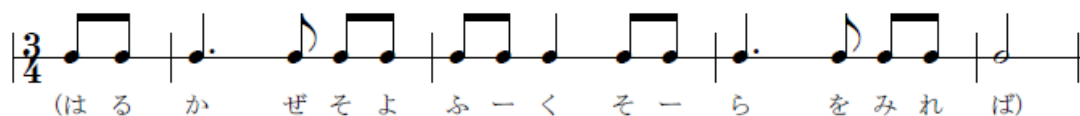
Step 1 「おぼろ月夜」のリズムに注目する

*本資料 p.20「何の曲かあてっこしよう」の活動などで、「おぼろ月夜」の全体像を捉えた後の活動として示しています。

先生：今から4小節リズムを打ちます。さて、おぼろ月夜の何段目のリズムを打っているでしょうか。よく聴いていてください。

(先生は3段目のリズムを打つ)

【楽譜1】



先生：さて、何段目のリズムを打ったでしょうか。

児童：1段目だと思うな。

児童：4段目かな。

児童：先生、もう一度聞かせて。

先生：それでは、もう一度打ってみますね。楽譜を確認しながら聴くのもいいでしょう。

(先生は、再度3段目のリズムを打つ)

先生：さて、何段目でしょうか。

児童：3段目かな。

先生：そうですね。正解は3段目です。

先生：先生のリズムが打っているリズムが何段目なのかを探している時に、何か気付いたことはないですか。

児童：1～4段目のリズムがほとんど一緒だった。

児童：3段目だけ、ほんの少し違うリズムだった。

先生：そうですね。具体的には3段目途中のブレスの後、「そ～ら」の「そ～」の部分だけが8分音符だったね。

【指導のポイント】

- ・ ここでは楽譜を見ながら聴いても、見ないで聴いてもいいようにしていますが、先生が打つリズムを聴きながら、自ら楽譜を見ようとする子がいないかに注目しておくとい良いでしょう。その子は、何か楽譜から手がかりを得ようとしていると思います。

Step2 お気に入りのフレーズを見つける

先生：みんなは、1～4段目の中で、「お気に入りの段」はあるかな。その「自分なりの考え」もあったら教えてください。

(表現CDで「おぼろ月夜」の範唱音源を再生し、楽譜を見たり、旋律のリズムを手で打ったりしながら聴いていく)

児童：私は、3段目かな。音が高くなって、だんだん降りてくるのがいい。

児童：私は、4段目です。少しずつ終わりに近づいて、落ち着くような感じがするので。

(このようなやり取りを続けて、「自分なりの考え」を尋ねるようにする)

【指導のポイント】

- ・ 「自分なりの考え」には正解がないはず。多様な考え方を共有していきましょう。
- ・ 「何となくいい」と答える子もいます。その場合は、みんなで「何となくいい」の理由を考えてもよいでしょう。

Step3 カノンのようにリズムを重ねて楽しむ

先生：では、おぼろ月夜のリズムで楽しんでみましょう。

先生が最初からリズムを打っていきますので、皆さんは1段目途中のブレスの後、「入り日」の「い」が来たら、最初の「菜の花」からリズムを打っていきます。先生のリズムを6拍聴いてから、追いかけるようなイメージです。それでは行きますよ。

【楽譜2】

先生 3/4 (な) (の) (は) (な) (ば) (た) (け) (ー) (に) (い) (り) (ひ) (う) (す) (れ) ~

児童 3/4 (な) (の) (は) (な) (ば) (た) (け) (ー) (に) ~

先生：今度は、皆さんから始めてみましょうか。先生は後から追いかけていきます。

(同じ活動を、順番を入れ替えて行う)

児童：先生、同じリズムで重なるところが多いです。

先生：よく気づきましたね。どことどのリズムが同じなのかな？

(楽譜を見たり、リズムを手で打ったりして確認していく)

先生：沢山見つけましたね。

みんなが気がついたとおり、一つの段の中に、繰り返し出てくるリズムがあるね。曲全体を見ても、そのリズムが繰り返されてまとまりをつくっていますね。

【指導のポイント】

- ・ ここでは先生が先に始めるパターン、児童が先に始めるパターンを一つの例として示しています。これ以外にも二人組で活動をしたり、全体を大きく四つに分けて、「かえるのがっしょう」のように分けたりして楽しむのもよいでしょう。

- ・ ここではリズムを手がかりにして、おぼろ月夜に親しんでいくような活動を示しています。その後の活動として、多くの歌手がカバーをしている「おぼろ月夜」を聴き比べるような活動につながると、さらに自分と音楽との関係を深く考えることができるようになるでしょう。

6年

p.12 短調のひびき

高倉弘光

短調と長調のひびきの違いを感じ取ることが目標になる学習です。歌唱やリコーダー演奏を避け、「聴くこと」をベースにした活動をご紹介します。

★活動名 「短調」と「長調」を見つけよう!

活動形態:全員が椅子に座った状態

先生の準備:オルガンやピアノなどの鍵盤楽器,教科書,指導書6年表現 CD から「マルセリーノの歌」の範奏音源と範唱音源,指導書6年鑑賞 CD から「ハンガリー舞曲 第5番」の音源,指導書5年表現 CD から「君をのせて」の範唱音源,CD プレイヤー

児童の準備:教科書

Step1 聴いて違いがわかるかな?

(教科書はまだ開いていない状態で……)

先生:今日は,聴くお勉強から始めましょう。今から2種類の和音を聴いてもらいます。それぞれ,どんな感じがするかな?

(和音を実際に聴かせる。先生が弾きます。簡単です)

和音1: ドー, ミー, ソー, ドミソー

(最後のドミソは三つの音を同時に鳴らします)

(たっぷり間を開けて)

和音2: ラー, ドー, ミー, ラドミー

児童:「一つめの和音はドミソで,二つめはラドミかな?」

「違うよ! 質問は、『何の音?』じゃなくて、『どんな感じ?』だよ」

「一つめの和音は何だか明るい感じで,二つめのは暗い感じでした」

「私はちょっと違うな。一つめは晴れている天気のように,二つめは曇っている感じかな」

「ぼくもちょっと違う。一つめは,ニコッと笑っている感じで,二つめはしょんぼりした感じの人の顔が頭に浮かんだよ」

先生:へえ,面白いですね。人によってさまざまだけど,一つめはなんとなく『前向き』っていう感じで,二つ目はその逆っていう感じなのかな。

児童：はい。そんな感じです。

先生：今日はこの二つの違いについて、勉強していくよ。

一つめに聴いたような、明るい感じのする和音が合う音楽のことを『長調』といいます。

では、二つめに聴いたような和音が合う音楽のことを「なに調」というのでしょうか？

児童：はい。一つめが「長い」なら、二つめは「短い」で、「短調」かな？

先生：はい、正解！ ちょっと寂しい感じのする和音が合う音楽のことを「短調」といいます。

実は、5年生のときにみんなが歌った「君をのせて」の中には、長調と短調が一つの曲に混ざっていたのです。ちょっと聴いてみましょう。

まずは始めの部分を聴いてみましょう。長調でしょうか、それとも短調でしょうか？

(5年表現 CD の「君をのせて」範唱音源を、冒頭から「君がいるから」まで再生する)

児童：「ん～？ 微妙だなあ」

「全体的に短調じゃないかな？」

「長調っぽいところもあったような……」

先生：そうですね。素晴らしい。よく聴いていました。

実は今聴いたところは、全体的に短調と言えます。

では、それを踏まえて、もう一度始めから聴きます。そして続きも聴きます。途中で長調に変わるところがあります。あ、長調になったぞ、というところで手を挙げてみましょう。挙げたらすぐにおろしていいですよ。では……

(同様に「君をのせて」範唱音源を、冒頭から「さあ出かけよう」まで再生する)

児童：「あっ！ 変わった！」

「うん、確かにわかったよ！」

先生：はい。たくさんの方が気付きましたね。「さあ出かけよう」のところで、パッと長調に変わりました。

では、続きです。今度は最初から最後まで聴きます。短調から始まるんだったよね。

聴いて行って、長調になったらまた手を挙げてください。今度は長調だと思うところはずっと手を挙げたままにしておいてください。

そして短調だなと思うところでは手をおろして聴くようにします。

難しいぞ～！ チャレンジしてみましょう！

(同様に「君をのせて」範唱音源を、全曲再生する)

児童：「ん～～、難しいなあ」

「わかったよ」
「面白い!」
「先生,もう一回!」

Step2 「マルセリーノの歌」は短調? 長調?

先生：はい。みんなよく聴いていたね。部分的に難しいところも何か所かあったけど、みんな真剣に聴いている姿が素晴らしかったです。

では、教科書12ページを開いて。「マルセリーノの歌」が載っていますね。

これも同じく「長調かな? 短調かな? 」という耳で聴いてみましょう。

まずは教科書の楽譜を見て何か考えることはありますか?

児童：「はい! アとイに分かれているから、どちらかが長調で、どちらかが短調だと思います」
「賛成!」

先生：では、聴いてみましょう。まずアの部分だけ聴いてみましょう。

(6年表現 CD から「マルセリーノの歌」のリコーダーによる範奏音源を、
アの部分のみ再生する)

児童：「わかった! この曲も最初が短調だ!」
「ホントだ!」
「わからなかった! 先生,もう一回お願いします!」

先生：では、もう一度聴いてみましょう。まずアだけです。

(再び「マルセリーノの歌」範奏音源を、アの部分のみ再生する)

児童：わかった! 短調だ!

先生：はい,正解!

児童：…ってことは、イは長調ですよ? 先生。

先生：さあ,どうかな? では,もう一度,今度はアからイまでを聴きます。

アの短調から長調に変わった!と思ったところで,パッと手を挙げてください。

すぐにおろしていいですからね」

(同様に「マルセリーノの歌」範奏音源を、ア～イまで再生する)

児童：「あ,これはわかりやすい!」

「さっきの『君をのせて』と同じだね。途中から長調になる!」

先生：はい。イのところから長調になりましたね。よく聴いていました。

児童：先生、まだこの曲、続くんじゃないですか？

先生：え？ どうしてそう思ったの？

児童：教科書に（始めにもどる）*D. C.* って書いてあります。

先生：はい。よく気付きましたね。「ダ・カーポ」といいます。

では、もう一度始めから最後まで聴きましょう。今度は手を挙げないでいいです。
短調、そして長調を味わいながら聴きましょう。

（範奏音源で「マルセリーノの歌」全曲を再生する）

先生：「歌詞もついていますね。歌も聴いてみましょう」

（範唱音源で「マルセリーノの歌」の全曲を再生する）

Step3 「ハンガリー舞曲 第5番」を聴こう！

先生：では、教科書 13 ページを見ましょう。今度も音楽を聴くお勉強ですね。

「ハンガリー舞曲 第5番」という曲を聴きましょう。

ところで、今は何のお勉強をしているんだっけ？

児童：長調と短調です。

先生：そうでしたね。ちょっと難しいお勉強だけれど、「音楽には長調と短調があるんだな、ではこの曲は長調かな？ それとも短調かな？」っていう聴き方をすると、音楽をもっと楽しく聴くことができるようになりますよ。

では「ハンガリー舞曲 第5番」の始めの部分を聴いてみましょう。

長調かな、それとも短調かな。

（6年鑑賞 CD で「ハンガリー舞曲 第5番」の冒頭から 28 秒までを再生する）

児童：「あ、これも短調かな」

「うん、これははっきりと短調ってわかるね」

先生：素晴らしい！ だんだんみんなの耳が鋭くなってきたね。

ではもっと先まで聴いてみましょう ……っていうことは、どこかのタイミングで長調になるところが ……実はあります。また、パッと手を挙げてみましょう。

（同様に「ハンガリー舞曲 第5番」の冒頭から 1分 27 秒までを再生する）

（1分6秒くらいから長調に変わる）

児童：「なかなか難しいなあ」
「もう一回聴かせてください」

(再び「ハンガリー舞曲 第5番」の冒頭から1分27秒までを再生する)

先生：そうだね。これまで聴いた2曲と同じように、長調か短調かはっきりしないところもありましたが、正解かどうかというより、これは長調かな？ 短調かな？ って思いながら聴く楽しさを味わってくださいね。みんなよく聴いていますよ。
ところで、この曲にはまだ続きがあります。全部通して聴きましょう。
手を挙げないでいいですよ。長調と短調が入り交じっている曲を味わって聴いてください。

(同様に「ハンガリー舞曲 第5番」の全曲を再生する)

児童：先生、この曲って長調、短調を聴くのも楽しいけれど、随分と速さが変わりますね。

先生：なるほど。先生も長調と短調ばかり聴いていたので気付かなかったけれど、みんなどうだった？

児童：「うん、私もそう思ってた！」
「そうだったんだあ」
「先生、もう一度聴いてみましょうよ」

先生：すごい！ 自分たちで勉強を発展させられるんだね。
では、今度は「速さ」に気をつけて聴いてみましょう。この曲は2拍子です。
先生と一緒に2拍子の指揮をしながら聴きましょう。

(再び「ハンガリー舞曲 第5番」の全曲を再生し、子どもたちは2拍子の指揮をしながら聴く)

(先生も一緒に指揮をする)

【指導のポイント】

- ・ 5年生の「君をのせて」を聴く活動(Step1)は、時間がなければ扱う必要はありません。
- ・ 長調と短調の違いを聴き分けることは、とても難しいものです。教科書13ページにある楽譜や鍵盤図で説明しても理解度はかなり低いものです。頭で考えて、というより、実際に先生が長調と短調の和音などを聴かせて感覚で理解させるようにする方が効果的です。とは言っても難しいのも事実。長調、短調を完全に理解するというよりは、音楽には長調と短調という調の種類があるんだな…という意識をもたせることで十分です。
- ・ ここでは「聴く」活動が中心です。音楽を「聴く」学習で大切なのは、一度聴いておしまいでは

なく、何度も聴かせて、その音楽と児童が仲良くなることです。音楽に親しみをもたせるように何度も聴かせる工夫をしましょう。ここでは長調、短調を切り口に何度も聴かせる工夫をご紹介します。児童から「先生、もう一回聴かせて!」という声が挙がったら、この授業は大成功と言えるでしょう。